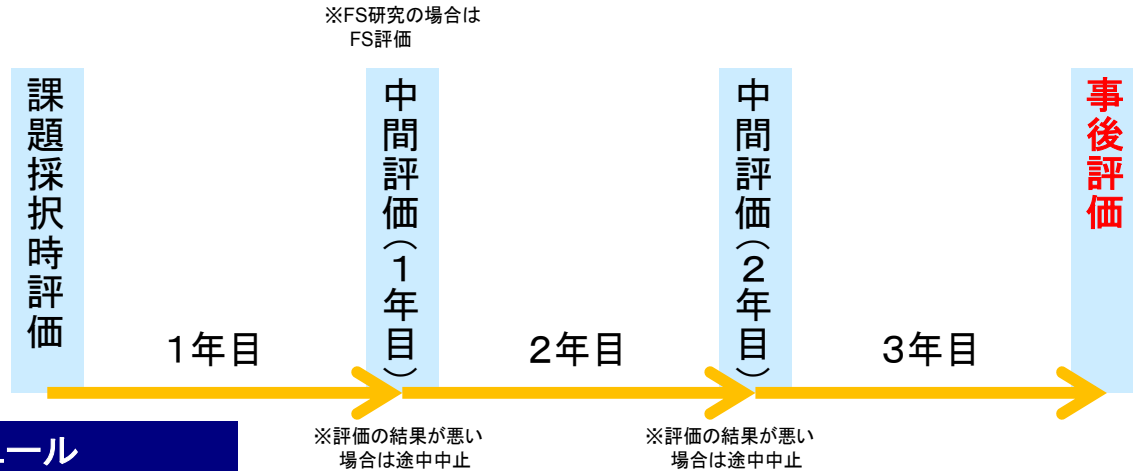


① 事後評価の位置付け

技術研究開発の採択～評価の流れ



② H28年度スケジュール

	H28年度				
	6月	7月	8月	9月	10月
事後評価関係書類作成 (研究代表者への通知等)	資料作成期間(約2ヶ月) 作成依頼通知		提出〆切		
事前査読期間 (評価委員による事前査読)					
研究評価会 (事後評価(案)作成)				評価案作成	
研究成果発表会 (研究成果の普及促進)					
第29回新道路技術会議 (事後評価決定)					

③事後評価の対象

分科会	領域	タイプ	採択	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	25	広域道路ネットワークの耐災害信頼性から見たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価	東京大学 教授 家田 仁	朝倉委員	大野委員 加藤委員 柴崎委員 根本委員 野村委員 福井委員 森川委員 道路局担当官 国総研担当研究官
	2	III	25	物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発	京都大学大学院 教授 谷口 栄一		
	6	I	25	事故発生位置情報を用いた事故分析総合システムの研究開発	東京大学 特任教授 山田 晴利		
ハード分科会	4	II	25	道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発－特に下部構造物を中心として	新潟大学 准教授 大竹 雄	前川委員	今村委員 清野委員 谷委員 那須委員 二羽委員 前川委員 森委員 道路局担当官 国総研担当研究官

1. 目的

研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価するとともに、あわせて今後の制度全体の評価や見直し等に活用することを目的として、事後評価を実施。

2. 事後評価の対象・時期

研究が終了した全ての研究課題を対象とし、研究終了の翌年度に実施。

3. 事後評価の視点及び基準

(1) 事後評価の視点

研究の視点、行政の視点に基づき、研究目的の達成度や研究成果、道路政策の質の向上への反映見込み等について、4段階(a～d)で評価。

	研究目的の達成度	研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。	評点	説明
研究の視点	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。	a	適切である／大いに期待できる
	研究成果の活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。	b	概ね適切である／概ね期待できる
行政の視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。※	c	やや適切でない／あまり期待できない
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。	d	適切でない／期待できない

※公募時の研究タイプ(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)の内容・ねらいを踏まえた評価とする。

(2) 評価基準

事後評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究課題の事後評価について、4段階(A～D)で総合的に評価。

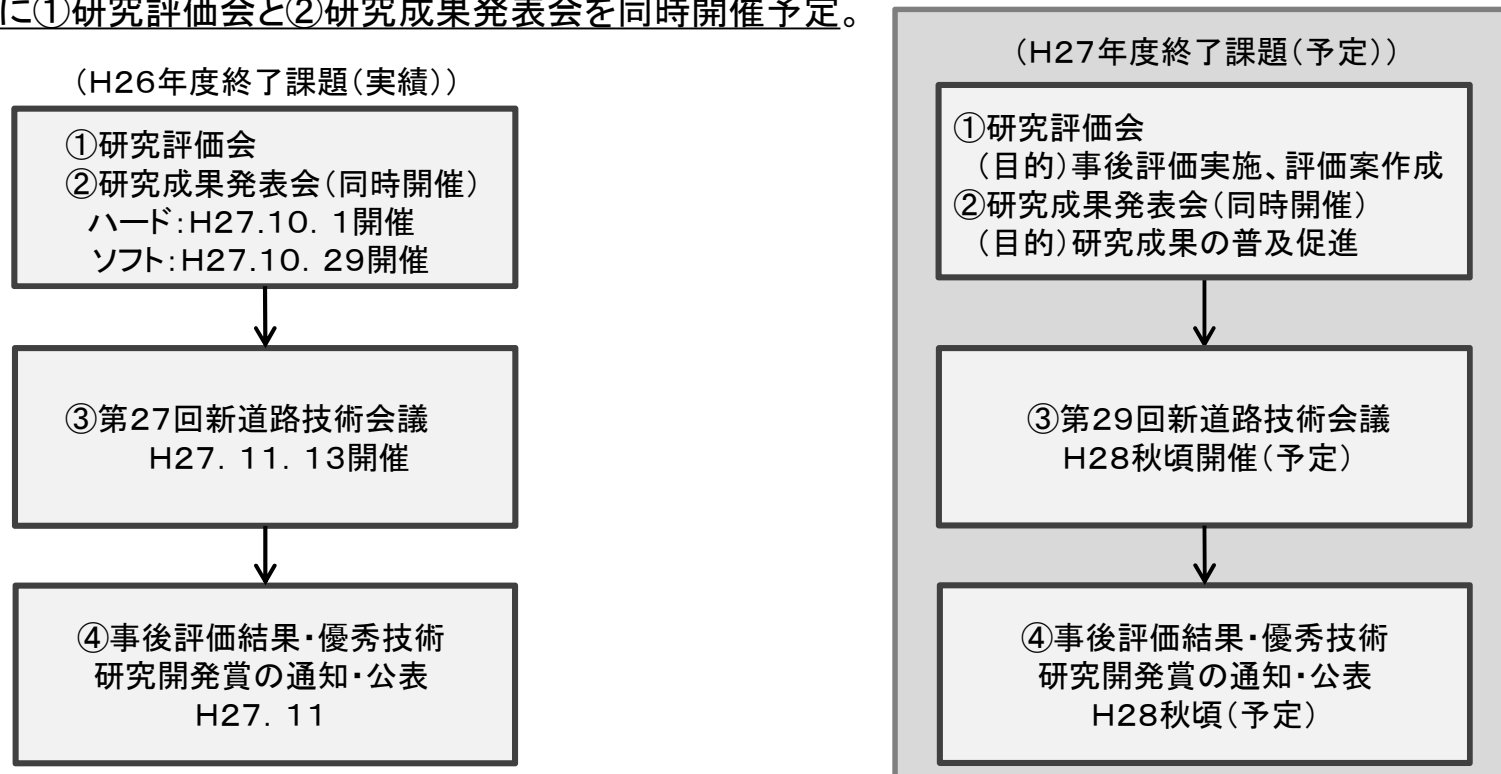
評点	説明
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったとは言い難い。

4. 表彰課題の選定

事後評価結果が「A」となった研究を全て表彰対象として選定し、新道路技術会議より「優秀技術研究開発賞」を授与するとともに、記念品(表彰盾)を贈呈。

5. 研究評価会・研究成果発表会の開催

研究期間終了後に研究評価会及び研究成果発表会を開催。なお、翌年度の事後評価の実施にあたっては、成果活用促進に向けて、昨年度と同様に①研究評価会と②研究成果発表会を同時開催予定。



6. 提出書類及び期限

(1) 提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出。

- ①「研究終了報告書」【様式1】
- ②「研究経費に関する調書」【様式2】(非公表)
- ③「研究概要」【様式3】(研究の背景・目的、研究内容、研究成果などをスライド4枚程度で簡潔に分かりやすく作成)
- ④「Summary of the Study」【様式4】(国際展開に係る情報提供の一環として、③の内容を英語で記述したものを作成)
- ⑤「技術研究開発成果報告レポート」【様式5】

(2) 作成依頼・提出期間

平成28年6月初め頃に依頼し、7月末までに提出

7. 事後評価の体制

- 評価対象課題をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(※P. 9(別紙1)参照)。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(7～8名)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

8. 事後評価の手順

事後評価の手順は、次のとおり。

① 事前査読の準備

(6月初め～7月末)

- ・ 事務局より研究代表者に提出書類の作成依頼
- ・ 研究代表者による書類の作成・提出
- ・ 評価分科会各委員へ提出書類の送付

② 書類の事前査読

(8月中)

- ・ 評価分科会各委員による書類の事前査読 (指摘事項等がある場合、研究代表者へ事前連絡)

③ 研究評価会・研究成果発表会の開催

(～9月下旬)

【研究評価会】

- ・ 評価分科会各委員による事後評価シートの作成
- ・ 各分科会における事後評価(案)を作成するための審議

【研究成果発表会】

- ・ 研究成果の普及促進

※P. 10(別紙2)参照

④ 事後評価(案)の作成

(～10月上旬)

- ・ 各評価分科会における事後評価(案)の作成、各委員への確認

⑤ 事後評価の決定・公表

(10月中下旬頃)

- ・ 新道路技術会議において事後評価(案)を審議し、合議により事後評価を決定。
- ・ 事後評価結果の公表

分科会	領域	タイプ	採択	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	25	広域道路ネットワークの耐災害信頼性から観たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価	東京大学 教授 家田 仁	朝倉委員	大野委員 加藤委員 柴崎委員 根本委員 野村委員 福井委員 森川委員 道路局担当官 国総研担当研究官
	2	Ⅲ	25	物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発	京都大学大学院 教授 谷口 栄一		
	6	I	25	事故発生位置情報を用いた事故分析総合システムの研究開発	東京大学 特任教授 山田 晴利		
ハード分科会	4	Ⅱ	25	道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発ー特に下部構造物を中心として	新潟大学 准教授 大竹 雄	前川委員	今村委員 清野委員 谷委員 那須委員 二羽委員 前川委員 森委員 道路局担当官 国総研担当研究官

研究評価会・研究成果発表会 ソフト分科会
議事次第(案)

日時:平成28年9月上～中旬
13:00～15:35(仮)

場所:霞ヶ関周辺(予定)

1. 開会
2. 挨拶、実施方法の説明(13:00～13:10)
3. 研究成果報告(1課題あたり40分)
 - 1)研究課題1(13:10～13:50)
 - 2)研究課題2(13:50～14:30)
 - 3)研究課題3(14:30～15:10)

～休憩(10分)～

4. 事後評価の審議(15:20～15:35)
5. 閉会(15:35頃)

1課題あたりの時間配分は以下を予定。
○20分説明(パワーポイント使用予定)
○20分質疑応答
○5分審議